

2022年度全学統一入学試験問題

国 語

(2月3日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

国 語 1～19ページ

※ 地歴・公民・数学の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注 意 事 項 (各科目共通)

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は63ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 試験1時限目で国語を受験した場合、国語を選択できません。試験1時限目で数学を受験した場合、数学を選択できません。
4. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。
 - ① 受験番号欄
受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
 - ② 氏名欄
氏名とフリガナを記入してください。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

次の文章を読んで、問一〜八に答えなさい。

疫病は、都市や建築を、何度も大きく転換させ、作り変えてきた。歴史を振り返ってみても、ペストによって、中世の密集した街と狭い路地は嫌われ、ルネサンスの整然とした都市と、幾何学が支配する大ぶりの建築が生まれた。では、今、コロナの後に、われわれは、どのような都市を作り、どのような建築を作らなければいけないのだろうか。

ひとつのテーマは、ハコ^Aからの脱却である。二〇世紀に、人々はハコに閉じ込められた。ハコの中で仕事をする方が効率がいいとされて、超高層ビルに代表される大きなオフィスビルや大工場に、一定時間閉じ込められて、働かされた。そのハコに出勤し、帰宅するために、再び鉄のハコに閉じ込められ、密を強要された。大きなハコで働き、通勤する人が、この世紀にはエリートとされた。そして都市はハコに埋め尽くされ、ハコとハコとの隙間も、鉄のハコの移動のための空間でしかなかった。この世紀は「自由の世紀」ともいわれたが、人々の暮らしを見る限り、ハコに閉じ込められた人々は、自由からは遠い存在に見えた。

実際にはハコに閉じ込められなくても、十分に効率的に仕事ができる技術を、すでにわれわれは手に入れている。今回のコロナ騒動によって、多くの企業がテレワークに踏み切ったが、「やればできたんだ」というのが、人々の感想であった。やればできたものを、やらないままにいたつげが、このような形でわれわれに降りかかってきた。

ハコに閉じ込められる仕事のやり方は、女性にも多くの犠牲を強いた。出産や子育ての時期には、ハコに通ってみんなで仕事をするのが難しい。そのために多くの有能な女性が仕事から排除され、社会から排除されてきた。そのような女性を再び社会が受け入れるきっかけを、今回の疫病が作ることにならなければ、社会が払ったこれだけの犠牲が浮かばれないだろう。

今回僕は、随分と歩いた。歩くことで体調を整え、また歩きながら様々なことを考え、様々なものを頭の中の紙の上でスケッチした。古代ギリシャのアリストテレスの一派は、歩廊で歩きながら講義を行い、逍遙学派^{しょうよう}と呼ばれた。歩きながら思考するという方法は、アリストテレスの師のプラトン、その師であるソクラテスから学んだといわれている。僕は歩き疲れると公園のベンチで仕事をした。ハコの外にいても十分な仕事はできるのである。むしろ普段は思いつかない新鮮な発想も生まれた。

歩くとは、人との距離を自由に選べるということでもある。密着したい時は、歩み寄って抱きしめればいいし、距離をとりたい時は、いくらでも遠ざかることができる。鉄のハコに詰め込まれて移動している時は、そうはいかない。歩くということは、いつも一人であるということであり、自由であるということである。

ハコからの脱却は、室内からの脱却ということでもある。僕はこれを、もう一回外を歩くことだと理解した。都市計画では、コンパクトシティということが、叫ばれはじめていた。都心の大きなハコで働いて、遠くの郊外に住むという二〇世紀のライフスタイルを続けると、都市はどんどん拡大していつてしまい、通勤と輸送にかかるコストやエネルギーを拡大する一方となる。地球温暖化にも歯止めがきかない。オフィスの近くに住んで、通勤の距離を縮めようというのが、コンパクトシティの考えである。都市計画の人たちは新しい言葉が好きで、スマート・シティという言葉も最近よく聞かれるが、どちらも、ハコ^C自体を解体しようという意識はキ^Aハク^Aのように見える。ハコを作る建設産業をエンジンとして回転していた、二〇世紀の産業資本主義システムは、いまだに健在なのである。都市計画も建築業界も、依然としてその利益共同体の傘下にあり、それを前提としてのスマート・シティなのである。

新しいテクノロジーでエネルギー消費を削減するといっても、ハコを温存する限りは、ただハコが重^Iソウ^Iウ^Iビになるだけで、ハコの値段が上がるだけで、都市の息苦しさは、いつまでたっても解消されない。新しい交通も結構であるが、歩くことは、単なる移動ではない。歩くこと自体が最も重要な時間となり、最も重要な時間を与えてくれるのである。

ハコにこだわるということは、室内にこだわっているということと同義である。人間が室内に暮らすようになったのは、エアコン（空調）という悪魔的な機械が登場してからであり、それほど歴史は古くない。学生の頃、僕は世界の集落の調査に明け暮れていたが、集落において、室内で人間が過ごす時間は驚くほどに短かった。ほとんどの時間を人々は、外部か、あるいは縁側、ベランダのような中間領域で快適に過ごしていた。

一八世紀のイタリアのジャンパティスタ・ノリが描いた地図（一七四八）は、当時もまだ室外というものがいかに重要な生活空間であったかを示している。ノリはローマの市街地を、白と黒の二色に塗り分けているのだが、建築が黒で、広場や街が白という通常の塗り分けではない。誰もがアクセスできる空間は、外部空間だけではなく、教会堂も含めて白であり、個人の^Uテイ^Uタク^Uのようにアクセスできない空間だけが、黒なのである。これを見た時、東京にはほとんど白い空間がないと感じた。誰もがアクセスできる白がネットワーク上につながって、都市の主役となっているローマを、^Dう^Dら^Dや^Dま^Dし^Dく^D感^Dじ^Dた。東京においては、道路もまた、車という「私」によって占有されている黒い空間であり、白は限りなく小さく、その小さな空間に人がひしめきあって、コロナの温床の「密」空間が生まれたのである。

二〇世紀におけるエアコンの発明によって、室内は密閉され、エアコンは室内の温度を下げるのとは逆に、室外の温度を上昇させ、室外はいよいよ不快な空間となった。二〇世紀に登場したもうひとつの大きな技術、車によって、室外はいよいよ不快で人のいられない場所へと落ちていった。ノリの地図では白い場所だったはずの街路が、車とエアコンによって、どんどんす黒く汚されていったのである。そのプロセスの果てに、地球温暖化が進行し、地球温暖化は、グローバルなレベルで街路という居場所を、人間から奪おうとしているのである。

必要なのは、単に白い場所を増やし、つなげ直すことだけではない。ノリの地図による白い場所、すなわち誰でもアクセスできるパブリック空間の中で、どう振舞うか。その問題も、今日のコロナによって、新たにわれわれにつきつけられた。

最低二メートルの距離をとりなさいと、繰り返し注意が喚起された。人間と人間との距離についてはエドワード・ホルルの『かくれた次元』(一九六六)という名著がある。ホール自身は文化人類学者であるが、この本のおもしろさは、動物同士の距離——敵からの逃走距離、仲間とコミュニケーションを行う際の距離——のスタディから論を始めていることである。生と死の境に立たされて、われわれは自分達が動物であることと向き合Eわされ、動物として、他の個体との距離に神経をとがらせている。動物個体距離から説き起こすホールの論は、説得力がある。

ホールの指摘で最も面白かったのは、アメリカ人と日本人の距離に対する繊細さの相違である。アメリカ人は触れるか触れないかという極めて単純な基準だけで空間の大きさを認識しようとする。ホールは発見した。この指摘は超高層オフィス、すなわち人に触れずに仕事ができるだけが利点の大きなハコの発明者が、他ならぬアメリカ人であることを見事に説明する。

一方日本人は、日本庭園の中に典型的に見られるように、人の筋肉感覚を駆使させながら——すなわち踏石や段差などで筋肉に働きかけながら——決して広いとはいえない空間の中に、様々な場所を作り、様々な種類の距離を作っていると、ホールは日本庭園を賛美する。そこからさらに建築論にまで踏み込み、フランク・ロイド・ライトの設計した旧帝国ホテル(一九二三)Fは、日本庭園の筋肉感覚と視覚とを統合する方法の建築への応用であり、ライトのアメリカでの建築群とは一線を画するといっているのである。ホールは、ひいきの引き倒しではないかと感じさせるほどに、日本人の距離に対する繊細な感覚を褒めたたえている。

(隈研吾「コロナ後の都市と建築」による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

1、イが 2、ウが 3。

ア キハク

- ① 山鳥のハクセイを展示する
- ② 彼は少しハクジヨウなどところがある
- ③ いろいろな土地をヒヨウハクする
- ④ あの作家はともハクシキだ
- ⑤ 異教徒がハクガイを受ける

イ ソウビ

- ① 新たな会社をソウギョウする
- ② 飛行機をソウジュウする
- ③ ピンクのホウソウ紙で包む
- ④ ソウジヨウ効果を狙う
- ⑤ 部屋をきれいにソウジする

ウ テイタク

- ① カンテイで記者会見をする
- ② リヨウテイで接待する
- ③ ホウテイで裁判を傍聴する
- ④ チテイを掘削する
- ⑤ 平身テイトウする

問二 傍線部A「ハコからの脱却」とあるが、筆者が「ハコ」にたとえているものに当てはまらないものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄

4。

- ① 電車
- ② オフィスビル
- ③ 大規模工場
- ④ エアコン
- ⑤ タワーマンション

問三 傍線部B「歩きながら思考するという方法」とあるが、この方法の利点はどのようなことだと筆者は考えているか。最も適切なものを、

次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、5。

- ① 運動不足を解消し健全な肉体を保つことができる。
- ② 風景や行き交う人からたくさんの情報を得ることができる。
- ③ 肌で風を感じたり公園のベンチで休んだりすることができる。
- ④ 束縛の多い社会から脱却することができる。
- ⑤ 何かにとらわれることのない柔軟な発想ができる。

問四 傍線部C「ハコ自体を解体しようという意識」とあるが、本文の内容に即して具体的に説明するとどういう意識といえるか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、6。

- ① 自然の風や光を室内に取り入れること
- ② 不要不急の外出を控えようということ
- ③ もう一回外を歩こうということ
- ④ 通勤の距離を縮めようということ
- ⑤ 郊外型の生活をしようということ

問五 傍線部D「ローマを、うらやましく感じた」とあるが、その理由を説明したものとして、最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、7。

- ① 誰もがアクセスできる広場がたくさんあり、「密」を避けることができるから。
- ② 大きな教会がたくさんあって、安心で安全な空間となっているから。
- ③ 大きな建物があまりなく、コンパクトな街づくりが行われているから。
- ④ 外部だけではなく内部にも出入り自由な空間があり、生活空間が広いから。
- ⑤ 街路が車に占有されておらず、空気が黒く汚れていないから。

問六 傍線部E「われわれは自分達が動物であることと向き合わされ」とはどういうことか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解

答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、8。

- (a) ホモ・サピエンスとなった進化について考えさせられた。
- (b) 安全な距離を意識させられるようになった。
- (c) 敵と仲間を区別する方法を再認識させられた。
- (d) 群から離脱して生きていく方法を考えさせられた。
- (e) 弱肉強食の食物連鎖を目の当たりにさせられた。

問七 傍線部F「日本庭園の筋肉感覚と視覚を統合する方法」とは具体的にはどのようなことか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、9。

- (a) 歩くこと
- (b) 触れること
- (c) 考えること
- (d) 距離を作ること
- (e) 繊細な感覚を持つこと

問八 傍線部G「ひいきの引き倒し」という慣用語の使い方として、最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマーク

しなさい。解答番号は、10。

- (a) クラシックカーに魅了され全財産をつぎ込みひいきの引き倒しになった。
- (b) かつての人気俳優が逆境をもとめせずひいきの引き倒しになった。
- (c) 倒産しかかった会社に融資してひいきの引き倒しになった。
- (d) ファンが楽屋口に押しかけてひいきの引き倒しになった。
- (e) 優秀な弟子をかわいがりすぎてひいきの引き倒しになった。

次の文章を読んで、問一〜七に答えなさい。

多くの読者にとって動物倫理という言葉は馴染みのないものだろうと思う。まずもってこの言葉に何かしらの違和感を覚えるのではないか。それはまさに「倫理」という言葉の常識的意味と乖離しているからだ。

倫理という言葉それ自体は古代ギリシアの哲学者であるアリストテレス（前三八四〜前三二二）に由来する紛うかたなき専門用語であるわけだが、日常的な日本語ではほぼ道徳と同一視されて、それについて為すべき何かを意味しているように思われる。そのため、単独でも、具体的な何かと関連させて用いられることが多い。例えば政治倫理といえれば政治家が持つべき倫理で、清廉潔白で、携わっている政治課題に独自の見解を有していなければならぬようにいわれ、昨今の政治家におけるその欠如が嘆かれるのが常である。また企業倫理という言葉も似たような意味でよく使われる。企業は確かに営利を追求するものではあるものの、度の過ぎた儲け主義が経営者をして人の道に外れる行いに踏み込ませたり、それ以前に単に私腹を肥やすために自らの地位を利用するような輩や風潮を嘆いたりする。

もう少し専門的になると医療倫理という言葉もかなり日常化してきた。これは本来、医療事象全般に関連する倫理判断を研究する学問を意味するが、日常的な用法では医師や看護師といった医療従事者が人道に外れた行いをしていないかを非専門家である市民側がチェックすべきだという文脈で用いられることが多いようである。そのため、医療従事者による犯罪的な逸脱が露見した際に、「医の倫理」の重要性が各種マスコミで唱えられたりする。

このように、必ずしも専門的に正確な意味ではなくても、かといって歪曲や曲解というほどでもなく、それなりの形で「倫理」という言葉が一般的に広まっているが、その基本的な用法は改めて精査するまでもなく、基本的に社会での事柄についてであり、社会というのはいまでもなく人間によって営まれる人間社会のことである。つまり、倫理とは常に「人間倫理」であって、動物倫理ではない。それなのに動物倫理というのはどういうことなのだろうか？

当然このような、倫理とは人間による人間のためのものであるという前提にあつて「動物倫理」という言葉を聞けば、それは人間が動物をどう倫理的に扱うかという話であり、具体的には主として犬猫のようなペット、つまり伴侶動物についての倫理なのではと思うのではないだろうか。

確かに学問としての動物倫理学にあつても伴侶動物の問題は重要であり、そのため後に改めて取り上げもするが、しかし動物倫理学では実は伴侶動物は比較的シユウエン的な問題になる。それ以上に、もっと広く常識化された前提それ自身が動物倫理学の最も重要な主題となる。

常識的な耳は、動物倫理と聞いて犬猫や動物園の動物を思い浮かべ、それらの動物を人間がどう扱うべきか、ギャクタイせず大切に扱わなければ

いけないというようなことを説くのが動物倫理学なのではと思うのではないか。確かに動物はギャクタイすべきではなく、犬猫や動物園の動物を丁寧に扱うのは大切なことではある。だがここで全く問われることがなく当たり前の前提とされている見方こそが、本当の問題なのだ。それは常に人間が主体であり、動物は客体だとされていることだ。

ここで主体とはもっぱら働きかける側のことを指し、客体とは働きかけられる側のことを意味する。人間と動物というこの場合、働きかけるというのはただ能動的に行為するというだけではなく、働きかける客体の趨勢を基本的に全て決定できるまでに絶対的だということをも意味する。そのため、客体である動物は基本的にその運命が全て人間によって支配される。つまり、動物を大切に扱うべきなのは支配者としての主体である人間の温情の問題だということになる。

いつもはほとんど意識されることはないが、動物がどう扱われるかは全て人間がその動物をどう思うかによって決まっている。魚屋やスーパーの鮮魚コーナーに行くとき食材としての魚を売っているが、これは我々人類が一部の特異な文化的タブーを除くと魚を基本的に食べてよく、むしろ食べるべきだと考えているからである。我が国はとりわけそうだろう。肉屋も然りである。つまりある動物は常識的に食べるものだと考えられている。別の動物はそうではなく食べずにそっとしておいたり、伴侶として愛玩するべきものだと考えられている。この人間社会の常識によって動物それぞれの基本的な運命は決まるわけである。

何を当たり前なと思われるかもしれないが、まさにこれこそが動物倫理学が問い質す主眼である。つまり本当に動物とは人間がその趨勢をほしきままにできる客体なのかどうか。それは実は不当な偏見であり、動物もまた主体でありうるし、主体とみなさなければいけないのではないかということに問うのである。

もちろんどのような思考実験にあっても、動物が主体として人間を客体化して支配するというのは、SF小説や映画でしかありえない妄想である。人間と動物の力関係が逆転する可能性は実際にはない。そうではなくて、現行のような人間と動物の支配被支配関係それ自体が変更された上で、動物の主体性が認められるのではないかという話である。

動物とは異なり、人間は自らの運命を他者によって翻弄されてはならないと考えられている。自らの生き方を自らで決めることができないう状態は、基本的な権利が侵害されている状態だとみなされるからである。つまり人間とは侵すことのできない権利を有する存在だと、当の人間自身によって認められ、罪を犯したなどの例外的状況ではない限りは、その基本的な権利が制限されてはならないとみなされている。こうした権利を有することが主体であることの前提条件である。逆にいえば、人間は権利的存在であるからこそ、主体的な存在でもあるということになる。

ということは、動物もまた主体でもありえるのならば、動物もまた権利を持ちうる可能性があることを意味する。これが「動物の権利」論の問

題設定であり、動物倫理学の最も重要な理論的問題である。

この一点だけからも、動物倫理学というものが容易ならざる、という以上に「不穩な」^D学問であることが分かるはずである。何しろ動物にも権利を認めろというわけで、ここだけを理由もなく聞かされれば世迷い言の類いに思われるだろう。

しかしもちろんこの動物の権利の主張には理由がないどころか極めて強固な根拠があり、そのために動物倫理学の主要内容として理論化されているのだが、なぜこうした一見すると X な主張が一定の広まりをみせたのか、その社会的な背景を考えてみることにしたい。「多様性」と「寛容」という考え方の広まりという文脈がここでは重要になる。

(田上孝一『はじめての動物倫理学』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

11、イが 12。

- | | |
|------------------|---------------|
| ア シュウエン | イ ギヤクタイ |
| ① 会社のエンカクを述べる | ① 反対勢力にタイコウする |
| ② エンカイの余興を準備する | ② 母親がタイジを宿す |
| ③ 省庁の調査結果をエンヨウする | ③ タイドを改める |
| ④ エンライの友をもてなす | ④ 出勤に備えてタイキする |
| ⑤ 袖振りあうも多生のエン | ⑤ タイロを断つ |

問二 傍線部A「倫理という言葉の常識的意味」とは何だと筆者は述べているか。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 13。

- ① その行為が、非営利、無犯罪であること
- ② それについて為すべき具体的なこと
- ③ あることについて、人間が人間のために為すべきこと
- ④ 人道に外れた行いをしてはいけないということ
- ⑤ 社会における行動規範を探ること

問三 傍線部B「企業倫理という言葉も似たような意味でよく使われる」とあるが、本文に出てくる「政治倫理」「企業倫理」「医療倫理」の「○○倫理」の共通点は何か。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 14。

- ① ○○が持つべき倫理で、その欠如や逸脱が嘆かれたり指摘されたりするという点
- ② ○○は、自己の営利を追求した行動をしてはいけないという点
- ③ ○○倫理に基づいて、市民側が○○をチェックしマスコミを通じて糾弾するという点
- ④ ○○が独自の見識や専門性を有していなければならないという点
- ⑤ ○○の道徳心を高めたり、啓発したりする行動が社会の中や○○の中で見られる点

問四 傍線部C「もっと広く常識化された前提」とは何か。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は、15。

- ① 人間は動物を倫理的に扱うべきであるということ
- ② 人間は動物の運命を支配してもいいということ
- ③ 動物は食べられるものと、愛玩されるものとに分けられるということ
- ④ 人間は自らの生き方を自らで決めることができる存在であるということ
- ⑤ 動物は虐げられたり殺されたりしてはいけないということ

問五 傍線部D「『不穏な』学問」とあるが、本文における意味は何か。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマーク

しなさい。答番号は、16。

- ① 容易には解決できない難題を抱えた学問
- ② 正しいかどうか検証することが不可能な学問
- ③ 人々をだますような、インチキくさく見える学問
- ④ 世の中に波風を立てるような危険をはらんだ学問
- ⑤ 社会体制を攻撃するような、辛辣な学問

問六 空欄Xに入る語句は何か。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。答番号は、

17。

- ① 笑止千万
- ② 茫然自失ぼうぜんじしつ
- ③ 傍若無人
- ④ 驚天動地
- ⑤ 荒唐無稽

問七 筆者の言う「動物倫理学」とは何か。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18。

- (a) 動物とは自らの生き方を自らで決めることができる存在であるという前提に立ち、人間と動物との関係を捉え直そうとするもの
- (b) 動物も権利を持ちうる存在であり、その動物が人間や人間社会に対して悪影響を及ぼしていないかチェックするもの
- (c) 動物とは人間に対して主となりうる存在であり、人間は動物に対して敬意を持つて行動すべきだとするもの
- (d) 野生の動物に対して、自由に生きる権利を認め、そのうえで人間が生存のために殺すことのみ認めようとするもの
- (e) 動物の多様性を認め、その多様な動物を差別することなく、平等に受容する寛容さを説くもの

次の文章を読んで、問一〜七に答えなさい。

電車の中で私の腕を掴んでいるフキコが私の耳元で呟いた。

「テッチャンさあ、この革ジャン少しカビ臭いかもよ」

二週間前までは夏を思わせる陽気の日もあつたのに、十一月に入るやいきなり肌寒くなったので、私は数年前にネットオークションで買った革ジャンを着ていた。私とフキコは母の自宅の近くにある、母がもう十年以上も通っている寿司屋に電車を乗り過ぎ向かっていた。

数日前に母が突然電話をしてきて、「たまには三人でお寿司を食べましょう」と言ってきたのだ。静かな住宅街にあるその店は、地味な外観とは裏腹に味も値段も銀座の高級店並みで、都心の繁華街で遊ぶのに飽きたような地元の人などが常連として来ていた。

改札を抜けると、フキコが私の手を握ってきた。

「テッチャンの手はどうしていつも温かいの」

彼女は昨日、デパートのバーゲンで半額以下の七千円で買った、ブランド物のスカーフを持ってきていた。ただの食事にそんな必要はないと言ったが、そういうのをあなたのお母様はチェックしているからと言う。

「その高いお寿司屋さん、お金は、お義母様が払うの？三人で六万円以上はするんでしょ」

私はフキコの問いに対して、前は割り勘にしたと嘘をついた。フキコは私のことを一瞬見て笑みを見せたので、嘘を見破られたのがわかった。寿司屋までは駅から徒歩十五分くらい、近くまでバスも走っているのだが運賃四百数十円を節約できるし、急ぐ必要もないので歩くことにした。

前回その店に行ったのは四ヶ月くらい前、夏だった。母と二人だったが、母が払っていた料金は二人で四万円ほど。母曰く食べても食べなくても一人二万なのだと言う。私は自分の財布の中に入っているお金が一万円弱だということを知っていたが、半分払うと言った。

「あなたに奢ってもらうのは、まだまだ先の楽しみに取っておくわ」

母はそう言いながら笑った。私はその時、母が右足を少し引きずるようにしていることに初めて気が付いた。大丈夫かと尋ねると、五年前、若い女優と芝居の最中につつかって大きく尻もちをつき、軽いムチ打ちになったときからだという。首は治ったのだが、右足全体に痛みが残った。ぶつかったのは、若い女優の芝居の段取りの間違いが原因で、母はその女優が稽古のときから何度も同じ間違いをしていたこと、なのに稽古を休んだりするし、いかに芝居の才能に乏しいかということ、歩きながら止め処なく語りだした。芝居の中で変化していく空間の感覚を、稽古で身体に染み込ませないからそんなチセツな間違いをするのだと、

X

を強めた。さすがに辛いので杖を使おうかとも考えているのだが、年寄り臭く思われたくない

ので、頑張って使わないようにしていると言う。

母は少し酔った顔をさらに赤らめ、その若い女優への文句を言いながら、自宅までの五百メートルほどの夜道を右足を気にしながら歩き続けた。そして年寄りの一人暮らしには大き過ぎる一戸建ての家に入って行った。少し痩せたように見えた。

「テッチャン、もっと早く歩いてよ」^B

フキコはそう言うて私の手を引つ張るように足早に進んでいく。その冷たい指にあらためて季節を感じた。

「私たちのお財布じゃ絶対に無理だから、遠慮しないで奢ってもらいましょうね」

店に入ると、母はすでにカウンターの一番奥で小さな生ビールを飲んでた。椅子の横に紫色の高級そうな杖が立て掛けてある。

母の右側に私が座り、私の右側にフキコが座った。

三人で生ビールで乾杯をした後に、フキコが母にプレゼントを渡すと、母はその場で包みを開けた。紫色のスカーフを首に巻いて、好きな色だと嬉しそうな顔をしている母を見て、私は大きな変化を感じた。以前なら、ブランド名を探したり、「いくらした、どこで買った」と聞くようなところがあったのだが、今回はブランドを確認しようともしない。

「紫が好きなよ、ほら、この杖だって紫でしょ」

母はそういって杖をフキコに見せた。

「足の具合はいかがですか？ お怪我^{けが}の話、テッチャンから聞きました」

フキコがそう言う^Dと、母はたまに見せる意地の悪い笑顔を見せた。

「今さら、何の文句を言っても始まらないけどね、私自身が注意しなかったのがいけないって思うようにしているわ。そういうレベルの人間と芝居をしていることを忘れた私^とがね。あとは歳ね、昔ならそんなダメな役者なんて、ヒョイッてかわせたの^にね」

「彼からお義母さんの昔の舞台の写真を見せてもらいましたよ。アクションのような踊りをなさっているところでした。大きな付けまつ毛が七〇年代っぽくてカッコ良かった」

「その頃は、杖を持つようになるなんて、思いもしなかったけど」

「少しりハビリしたら絶対に良くなりますよ」

「仕方ないわ、全て心地良いものはないからね」

それは最近の母の口癖だ。

だから逆に、いい歳になっても自分の力でそれらを得ることが出来ない現実に引け目を感じていて、十年くらい前までは、母と一緒にこの手の店に来るのを極端に避けていた。だが、元氣とはいえさすがに歳をとったと感じることも多くなり、母からの食事の誘いを断らないことも親孝行であろうと思うようになった。

コース形式で出てきた一通りの料理を食べ終えた頃、母は次の芝居はいつやるのかと尋ねてきた。

次の芝居は先週決まったばかりである。フキコが書いたギキョクのプロットによると、それは悲しい親子の壮絶な物語だ。若い女が主人公で、彼女の自我が分裂した分身役、母親、恋人的な男が登場する四人芝居だ。フキコが高校生だった九〇年代後半の時代設定で、コギャルやルーズソックスなどの言葉が出てきた頃、だと言う。

「私の筆が遅くて予定が延びているんです。少し前にやっと書き始めて、なんとか一ヶ月以内には書き上げようと思っていますが。親子の話なんです、母一人子一人の。登場人物は娘の相手役として男がもう一人いるんですけど」

フキコが何気なく母に言った。母一人子一人、という言葉に、胸の奥が一瞬疼いた。同じようにフキコの話を知っている母をそっと盗み見ると、彼女もどこかしら遠い目をしていた。

（大鶴義丹「女優」による。設問の関係上、本文を改めたところがある。）

問一 傍線部ア～ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の(a)～(e)のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号はアが

19、イが 20、ウが 21。

ア 乗りツぎ

- (a) 自分の思いをコクハクする
- (b) 武道の奥義をケイシヨウする
- (c) セキジ表に従って着席する
- (d) 売買ケイヤクを結ぶ
- (e) 自然のオンケイを受ける

イ チセツ

- (a) インフルエンザの予防セツシユを受ける
- (b) 光のクツセツ率を測定する
- (c) 試験問題をカイセツする
- (d) セツソクな判断は慎むこと
- (e) ネット回線をセツダンする

ウ ギキヨク

- (a) うわさのシンギを確かめる
- (b) 素晴らしいエンギを見せる役者
- (c) 保育園のおウギ会を見る
- (d) サギ罪で検挙される
- (e) 今後の方針をキヨウギする

問二 傍線部Aについて、文中での意味を示すものとして、最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解

答番号は、 22。

- (a) 期待はずれ
- (b) 反対
- (c) 裏切り
- (d) 悪意
- (e) 意外

問三 空欄

X

に入る言葉として、最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

23

- (a) 嘆息
- (b) 吐息
- (c) 呼気
- (d) 意気
- (e) 語気

問四

傍線部B「『テッチャン、もつと早く歩いてよ』フキコはそう言って私の手を引っ張るように足早に進んでいく」の部分からは、どのようなこと

が読み取れるか。不適切と思われるものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

24

- (a) テッチャンが、前回の母親との会食のことを思い出していて、ほんやり歩いていることに対して少しいらだっているフキコ的心情
- (b) テッチャンの母に、高級な寿司を御馳走ごちそうになることを、とても楽しみにしているフキコの様子
- (c) のんびり歩いていると、約束の時間に遅れてしまうのではないかと心配するフキコ的心情
- (d) 外は気温も下がり、冷え込んだので、早くお店に入りたいというフキコの願い
- (e) 約束の時間に遅刻してしまったら、テッチャンの母に奢ってもらえなくなるのではないかとというフキコの焦り

問五 傍線部Cについて、ここに見られる「大きな変化」から、最近の「母」のどのような状態がうかがえるか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

ちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、25。

- (a) いままでは、年寄り臭く思われまいように頑張ってきたが、そのような無駄な努力はやめようと「母」が思うようになったこと
- (b) 息子の嫁に対する母親としての意地が失われ、嫁と仲良くやっついていこうと「母」が考えるようになったこと
- (c) それまで気になっていた細かなことへのこだわりにとらわれるのではなく、目の前の現実をあるがままに受け入れていこうと考えるようになったこと

- (d) 往年の名女優としてのプライドにこだわり、身に着けるものにも神経をとがらせてきたが、年を取りその必要もなくなってきたということ
- (e) 年を取ることで、興味の幅が狭くなり、目の前の事にしか関心が向かなくなってきたということ

問六 傍線部D「母はたまに見せる意地の悪い笑顔を見せた」について、ここに込められた「母」の心情はどのようなものであると考えられるか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、26。

- (a) 息子夫婦に、自分のことをもっと大事にして、さまざまに氣遣ってもらいたいという願望
- (b) 自分に怪我を負わせた若い女優に対する、いまでも拭い去ることが出来ない不満や怒り
- (c) 息子の嫁が、自分を哀れんでかけた言葉に対する反発や抵抗
- (d) 才能の乏しい若い女優に対する嫌みや皮肉
- (e) フキコの心配や氣遣いはありがたいが、いまさらどうにもならないという諦念

問七 空欄 Y には、次の①～④の各文が入る。正しい順に並べるとすれば、どれが最も適切か。次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号

をマークしなさい。解答番号は、27。

- ① フキコは、こんなに美味^{おい}しいもの食べたことがないと本気ではしゃいでいる。
- ② ふだん私達が行く居酒屋で出てくるものとは次元が違っていた。
- ③ だが私は子供のころから母との生活の中で、そのレベルの料理には慣れ親しんでいた。
- ④ その店では、注文をしなくとも次から次へと勝手に刺身などが出てくる。

⑤	④	③	②	①
②	②	③	④	④
↓	↓	↓	↓	↓
③	①	④	③	②
↓	↓	↓	↓	↓
①	④	②	①	①
↓	↓	↓	↓	↓
④	③	①	②	③